

東カリブ諸国機構（OECS）6カ国月間情勢報告

（アンティグア・バーブーダ、ドミニカ（国）、グレナダ、セントクリストファー・ネイビス（セントキッツ）、セントルシア、セントビンセント及びグレナディーン諸島（セントビンセント））

（2020年6月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

1. 概況

- 5日にセントキッツ総選挙が実施され、連立与党が2議席を増やして勝利し、ハリス首相が再選された。同首相は2期目が最後との以前の公約を強調。
- 新型コロナウイルス感染が落ち着いている中で、アンティグア及びセントルシアでは空港が再開され、他の国でも再開に向けた動きが見られる。
- 経営難に陥っているLIAT航空について、アンティグア首相は一旦清算の上、新会社として存続を主張しているが、セントビンセント首相は、現在のコロナ禍の中、存続は困難との立場。
- OECS首脳会合が開催され、議長国にドミニカが就任。医療従事者派遣のキューバへの謝意声明、米国のキューバ、ベネズエラ制裁非難声明が発出された他、コロナ禍に関する国境再開の規則等が協議された。

2. 内政

（1）新型コロナウイルス

（ア）アンティグア

- 1日、空港が再開され、入国者のマスク着用、健康質問票等の指針が発表。2日、空港に続き、船舶の受入れ再開が発表。4日、再開後初の商業便（マイアミ発）が到着。
- 24日、政府は、帰還自国民から39人の感染者が確認され、26日、入国者全員への検査及び検疫義務付けを発表。
- 26日、インドはUNDPを通じて呼吸器5台を寄贈。

（イ）ドミニカ

- 11日、15日から夜間外出禁止時間を緩和、観光、娯楽関連店舗等の完全営業再開許可等を発表。
- 29日、緊急事態宣言及び夜間外出禁止は30日で解除されると発表。

（ウ）グレナダ

- 2日、夜間外出禁止が9日まで延長。8日、夜間外出禁止の時間短縮及び23日までの延長、ビーチ開放や店舗の営業時間の延長が発表。営業許可済み企業の営業時間を午後7時まで延長と発表。23日、夜間外出禁止が30日まで延長、28日、同禁止時間の更なる短縮が発表。

● 15日、政府は、7月1日よりの空港再開を発表。

(エ) セントルシア

● 4日、国境が再開。

● 12日、15日から夜間外出禁止時間短縮、社交行事の条件付き開催許可等を発表。

● 23日、台湾はマスク、PCR検査機器等を追加寄贈。

● 25日、汎米保健機構（PAHO）は、マスクや防護服等を寄贈。

(オ) セントキッツ

● 4～6日は総選挙実施との関連で夜間外出禁止を解除。

● 12日、13～27日の夜間外出禁止時間短縮、ビーチ開放時間拡大、店内飲食、バー等の営業許可を発表。

● 13日、UNDPは警察及び刑務所職員にマスク3千枚を寄贈。

● 26日、緊急事態法に基づく規制を一部緩和の上、7月25日まで延長と発表。

● 26日、台湾はマスク20万枚、医療用マスク1万枚、検温器6台、検査機器2台等を寄贈。

(カ) セントビンセント

● 17日、台湾はPCR検査2台、マスク20万枚、検温器450個を贈呈。

● 22日、政府は、7月1日よりの空港再開に向け、7月中は全ての入国者にPCR検査を実施、8月1日よりカリコム旅行圏を実施し、この地域圏内ではPCR検査は不要となる、ヨットなどの海上入国者は、22日付で洋上検査を可能とする等を発表。

(2) その他の内政

● 3日付グレナダ紙は、ミッチェル首相は、教育大臣及び首相府特命担当大臣の職務を変更する内閣一部改造を発表したと報道。

● 6日、セントキッツ総選挙が実施され、連立与党が2議席を伸ばし、11議席中9議席獲得して、勝利した。7日、ハリス首相の就任宣誓式が行われ、同首相は同国の強靱で安全な未来のために努力すると述べたが、公約通りこの2期目が最後と強調した。7日、カリコム選挙監視団は、総選挙の結果は国民の意思を反映したものとの暫定報告を発表。15日、新内閣が発表され、ブランドリー外務大臣等は留任。

● 25日付セントキッツ紙は、本年前半の重大犯罪件数は、前年同期比で43%減少、特に銃による殺人件数73%、非殺人発砲件数が88%減少したと報道。

● 26日付セントキッツ紙は、野党労働党は、今回の総選挙でセントキッツ島8選挙区の内6選挙区で不正があったとして、異議申立てを行ったと報道。

● 各国で、自国民の帰還が多く見られた他、東カリブ諸国からカナダへ農業関連の雇用を求めて渡航する人が多いと報道。

3. 経済

- 1日付グレナダ紙は、世銀は同国の新型コロナウイルス検査能力増強、医療施設整備、隔離能力強化等のために250万米ドルを支援すると発表したと報道。
- 2日、OECSは、国連バルバドス事務所と共同で、東カリブ地域においてコロナ禍で、ハリケーンの季節を迎え、社会保護を強化し、今後の医療、経済、気候面での衝撃に対する強靱性強化計画(475万米ドル)を開始したと報道。
- 2日付グレナダ紙は、EUはカリブ諸国の災害危険保険制度への保険金支援として1,100万米ドルを支援し、グレナダは今年の保険料が17.3万米ドル減少する恩恵を受けると報道。
- 3日付ドミニカ紙は、政府は20/30年国家強靱性強化計画として気候強靱性政策枠組みを発表し、国民中心の開発確保のための43の強靱化目標を掲げたと報道。
- 3日付ドミニカ紙は、カリコムIMPACS(治安及び安全保障実施機関)は英国の支援を得て、ドミニカの刑務所内での新型コロナ予防のための衛生用品を寄贈したと報道。
- 5日付グレナダ紙は、中国との農業技術協力枠組みに基づき、中国からの総額120万東カリブドルの農機具等の寄贈式が行われたと報道。
- 16日付ドミニカ紙は、スケリット首相は、コロナ禍の影響を受けている中国支援の新空港建設は優先事項から外れておらず、続行すると強調したと報道。
- 17~18日付地域各紙は、カナダは、2千万加ドルのカナダ・カリコム気候適応基金を通じ、気候変動への対応支援として、グレナダ190万加ドル、セントルシア300万加ドル、セントビンセント100万加ドルの受給が可能と発表したと報道。
- 23日、セントルシア政府は、世銀は、東カリブ4カ国及びOECS事務局に対し、包摂的なデジタル経済推進のための総額9,400万米ドルの支援(ドミニカ2,800万ドル、グレナダ800万ドル、セントルシア2千万ドル、セントビンセント3千万ドル、OECS事務局8百万ドル)を承認したと発表。
- 23日、シャスネ・セントルシア首相は予算演説を行い、コロナ禍には当初より多分野に亘る取り組みを行っており、経済復興多分野委員会を設立し、経済刺激策、即効性資本投資プロジェクト及び社会保護制度強化の復興戦略と生産部門の強靱性構築、保健分野の強靱性及び災害管理、気候変動という強靱性戦略を推進する等と強調。
- 23日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス財務大臣は、3月以降失業率は10ポイント上昇、歳入は20%減少したと述べたと報道。
- 23日付セントビンセント紙は、UNDPはジェンダー重視の災害復興、気候

環境強靱性のために10万米ドルを支援すると報道。

- 25日、L I A T航空は、運休期間を7月15日まで延長すると発表。
- 25日付ドミニカ紙は、E Uとの間でハリケーンの地域避難所2カ所建設のため3, 200万ドルの契約が署名されたと報道。
- 26日付セントビンセント紙は、世銀は、第2次財政改革・強靱性開発政策支援4千万米ドルを承認し、コロナ禍を含め災害対策時の財政能力強化を支援すると報道。
- 28～30日各紙は、ブラウン・アンティグア首相は、経営困難に陥っているL I A T航空を一旦清算し、新生L I A Tを立ち上げ、その本社はアンティグアに置くべきと述べ、ゴンザルベス・セントビンセント首相は、コロナ禍の中でL I A Tを存続させることは困難と述べたと報道。
- 29日、O E C Sは、世銀は、新型コロナウイルス緊急対応支援として、セントルシア（500万米ドル）、ドミニカ（300万米ドル）、グレナダ（250万米ドル）及びセントビンセント（450万米ドル）の保健当局への支援が実施されると発表。
- 29日付セントルシア紙は、主要幹線道路40キロの補修が英国から3, 500万ドルの無償資金、カリブ開発銀行（CDB）から800万米ドルの借款及び政府が900万米ドルを負担して実施されると報道。

4. 外交

- 3日付グレナダ紙は、デービッド外務大臣は独中南米会合に出席し、E U議長国の独がE Uの税制ブラックリスト問題に取り組むことを期待すると述べたと報道。
- 4日付アンティグア紙は、ブラウン首相は、同国兼轄米大使は港湾関連債務9百万米ドルの返済を求め、支払われない場合国防軍への支援を中断すると脅していると述べたと報道。
- 8日付地域紙は、ブラウン・アンティグア首相（O E C S議長国）は、セントキッツ総選挙でのハリス首相再選に祝辞を発出したと報道。
- 7～10日付各国紙は、5月の米国での警官によるアフリカ系米国人の死亡事件に端を発し、人種差別抗議が東カリブ諸国でも行われ、ゴンザルベス・セントビンセント首相やシャスネ・セントルシア首相が人種差別を批判する声明等を発出したと報道。
- 10日、米州ポリバル同盟経済会合（A L B A－T C P）が開催され、東カリブ諸国からも出席があり、新型コロナウイルスに関するベネズエラ、キューバ等からの支援への謝意、米国のキューバ、ベネズエラ制裁への反対、地域連帯の重要性を強調した。（各紙報道）

- 12日、セントルシアは国連障害者権利条約を批准し、181カ国目の同条約加盟国となった。
- 12日及び19日付各紙は、アンティグア及びセントビンセントはスコットランド英連邦事務局長（ドミニカ出身）の再選を支持すると報道。
- 12日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相は、ガイアナ総選挙に関し、選挙委員会が再集計結果に基づく結果発表を行うよう要請したと報道。
- 18日、OECS首脳会合が開催され、今回よりスケリット・ドミニカ首相が議長に就任、新型コロナウイルスに関するキューバの医療事業者派遣への謝意及び米のキューバ制裁非難声明を発出し、国境再開時の規則等のコロナ対策等協議。
- 22日付セントビンセント紙は、ゴンザルベス首相は、台湾は新議会及び裁判所建設のため2千万ドルの低利借款を提供すると述べたと報道。
- 24日付グレナダ紙は、同国は中東で初となる領事館をドバイに開設したと報道。

※これは、報道等公開情報をまとめたものであり、報道の真偽まで確かめたものではありません。